

農作物の降雹・突風・大雨被害に関する技術対策

令和元年6月5日
農業技術環境課

6月5日午後、村山地方を中心に、大気が非常に不安定な状況となり、降雹・突風・大雨が見られた。今後、農作物の生育や収量への影響が懸念されることから、農作物の被害を最小限に止めるため、下記を参考として、早急に技術対策を講じる。

記

1 共通

(1) 降雹

- ① 降雹による被害は、雹粒の大きさや量、時間、作物の生育時期によって、果実の打撲、裂傷、落果、茎葉の損傷等、被害部位や、程度が異なるので、農作物の種類、生育ステージに応じた対策を講じる。
- ② 降雹被害を受けた農作物には、直ちに、適用のある殺菌剤を散布し、傷口からの病原菌の侵入を防止するようにする。
- ③ 降雹により茎葉の損傷を受けた場合は、今後草勢の低下や生育遅延が発生する機会が多いことから、葉面散布により、草勢の回復を図る。
- ④ 降雹による被害は、降雹直後には分かりにくく、2、3日後に明確に現れることが多いため、降雹のあった地域では、農作物の状況を継続的に観察して、被害の有無を確認する。

(2) 突風

- ① 施設や機器に被害がないかを確認し、補修や修理が必要な場合には安全を十分に確保した上で速やかに行う。
- ② ハウスや雨よけテントでは、マイカ線の締め直しや支柱の点検を行い、ビニールの破損部分は補修する。

(3) 大雨

- ① 圃場内に停滞水が見られる場合は、速やかに排水対策を実施する。

2 果樹

- (1) 降雹により損傷を受けた果実は、適正着果に留意しながら、損害程度に応じ、速やかに摘果を行う。
- (2) 降雹のあった園地では、直ちに殺菌剤による防除の徹底と、葉面散布による早期の草勢回復を図る。

3 野菜・花き

- (1) 茎葉が損傷した圃場では、直ちに殺菌剤による防除の徹底と、葉面散布による早期の草勢回復を図る。

4 大豆

- (1) 停滞水が見られる圃場では、排水対策を徹底し、早めの中耕・培土で早期の草勢回復を図る。